

第2回新しい学校づくり推進委員会 会議概要

- 1 日 時 平成25年11月29日(金)
開会：午後2時
閉会：午後4時15分

- 2 場 所 大安公民館2階 大会議室

- 3 出席委員 森脇健夫 小林共子 土岐昌男(代理 藤本茂行) 小寺光紀
藤本孝徳 児玉勝彦 山下秀人 井上征樹 三輪美紀
近藤恵理子(代理 花井智也) 吉野 睦 岡 正光 佐野謙二
渡部正利 児玉由布子

- 4 欠席委員 織田泰幸 水貝明子

- 5 出席した事務局職員
教育委員長 川瀬正幸 教育長 片山富男
教育部長 近藤重年 教育総務課長 小林幸次
学校教育課長 小川専哉 自然学習室長 岡 忠義
教育研究所長 近藤利彦 学校教育課課長補佐 岡本利和
学校教育課課長補佐 北本吉宏
教育総務課課長補佐 梶 正弘 教育総務課 伊藤宗幸
教育総務課 大久保美佳

- 6 会議次第
 - 1 開会
 - 2 前回会議録の確認(教育総務課)
 - 3 藤原地区新しい学校づくり懇談会の報告について
 - 4 小中一貫教育について
 - 5 いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン(案)について
 - ①小中一貫教育として取組みたいこと
 - ②小中一貫教育に必要な条件整備について
 - 6 意見発表及び意見交換
 - 7 藤原地区小学校建設計画について
 - 8 閉会

7 会議の要旨

委員長・2名の傍聴希望者があり、いなべ市教育委員会傍聴規則に準じて許可する旨を委員に諮り、了解を得た。

- ・傍聴希望者に傍聴規則を朗読し説明した。

日程第3 藤原地区新しい学校づくり懇談会の報告について

事務局・11月15日に開催された藤原地区新しい学校づくり懇談会について、会議での意見は次のとおりであった。

- ・「いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン」について、推進ビジョンの市民への公表は3月ということか。また、小中一貫教育をスタートさせることを公表するのも3月なのか。
- ・平成29年度から教育環境が変わるので、子どもたちのメンタル的なことを教師も一緒に考えてもらいたい。
- ・通学方法について、スクールバスで通学することになるのか。
- ・小学校の6年間の間は、歩いて学校に通うことも大切なのではないか。
- ・校舎の建設について、校舎はどこに建てるのか。また、校舎の建設場所などの具体的な案はいつ発表されるのか。

日程第4 小中一貫教育について

(小中一貫教育について、森脇健夫委員長が資料をもとに説明した。)

日程第5 いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン(案)について

①小中一貫教育として取組みたいこと

②小中一貫教育で必要な条件整備について

(4班に分かれてグループ討論を行った。)

日程第6 意見発表及び意見交換

1班 ①小中一貫教育として取組みたいこと

- ・これまでも各小中学校で特色ある学校づくりをすすめてきており、地域と密接した学校づくりに取り組んできている。小中一貫教育でも、地域の特色やこれまでの各学校の特色ある実践を活かし、9年間を通して取り組んでいきたい。
- ・小学校と中学校が一緒になり9年間となるのだから、児童・生徒がお互いに交流やふれあいのできる縦割りの活動を取り入れるなど、児童・生徒の交

流のある活動をすすめていきたい。

- ・教科等の連携、授業研修、授業実践などを充実させ、学力向上に繋げていきたい。
- ・子どもたちの安心・安全を大切にしたい学校づくりをしていきたい。
- ・学校がコミュニティの拠点となる小中一貫教育をめざしたい。

②小中一貫教育に必要な条件整備について

- ・学援隊の取り組みなど、地域の支援が必要である。
- ・「人材と予算」。コーディネーターの配置、職員の配置などがなければ、実践は難しい。
- ・教育活動をすすめるための場所や空間の確保が必要である。スクールバスなどの環境整備、また通学に関わっての安全確保が必要である。

2班 ①小中一貫教育として取組みたいこと

- ・めざす子ども像がはっきりしないと、現場の教職員の協力は得られない。まずは課題の共有に取り組むたい。
- ・いなべ市の豊富な地域教材を整理していきたい。人材についても学援隊などを活用していきたい。
- ・家庭学習の手引きを整理して、保護者の共通理解を得ていきたい。
- ・小・中学校の相互乗り入れをどの教科で行うのかについては、まずは図工、家庭、体育を小学5年生、6年生、中学1年生で実施していきたい。
- ・「コミュニケーション力の育成」や「キャリア教育」などに取り組む、子どもが自信を持って卒業していくことをめざしたい。

②小中一貫教育に必要な条件整備について

- ・移動手段の整備が必要である。
- ・やはり「予算」は必要である。

3班 ①小中一貫教育として取組みたいこと

- ・員弁地区は1中2小なので一貫教育の連携がしやすいと思われるが、小・小の連携として、カリキュラムを統一し、9か年のカリキュラムを作る必要がある。そのカリキュラムに基づいて、授業スタイルの統一をはかっていきたい。
- ・授業の相互乗り入れに取り組むたい。
- ・小学1年生から英語教育を取り入れてはどうか。
- ・児童・生徒の交流活動については、生涯学習、社会教育の分野で交流をしてはどうか。学校教育の分野では、合唱やボランティア活動を、地域を考えながらやっていけるのではないか。

- ・9 か年でどんな子どもに育てるのが大切である。めざす学校像やめざす子ども像をすりあわせることが大前提である。

②小中一貫教育に必要な条件整備について

- ・組織と人材育成。コーディネーターが必要であり、またそれを運営していく組織が必要である。
- ・教育課程の整備。6 年生が中学 1 年生の授業内容を学習できるような「先取り」といった条件を整えることが必要である。
- ・学援隊など地域との連携が必要である。
- ・ICT、電子黒板等の充実が必要である。
- ・交流授業の際には、子どもの移動を伴うので、バスなど移動手段を考える必要がある。
- ・3校（1中2小）が、インターネットで情報を共有できる環境が必要である。
- ・合唱発表会などを行うには、員弁地区の1中2小で800人の児童・生徒数になるので、800人が入れる施設が必要である。

4班 ①小中一貫教育として取組みたいこと

- ・人間づくり。まずは人間関係をつくる力の育成を重点的に考えたい。新カリキュラムの徹底や集団遊びの充実などや、異学年との集団生活の中で上級生から学ぶ力をつけていきたい。また学習規律や生活規律の共有をはかりながら進めていきたい。
- ・体力・学力の向上。学力の向上のために、小中の児童・生徒の交流や、教職員の小中交流をし、小学生が中学生になったときに、スムーズに授業づくりの移行が出来るようにしたい。また、積み上げ教科などについては、基本的な部分の先取り学習をしていき、中学生になったときにスムーズに学習に入っていけるようにしたい。
- ・地域との連携。地域の力を学校に取り入れていきたい。いなべ市に誇りや愛着心を持ち、いなべ市に学んだ子どもたちがこの地において次の世代をつくっていけるようにしていきたい。学援隊との連携をしていきたい。

②小中一貫教育に必要な条件整備について

- ・教職員の増員が必要である。
- ・専門的な分野のコーディネーターが必要である。
- ・教職員の意識の共有化。情報の共有化の点で、地域の情報、道徳やSSTの情報を蓄積して、どういう流れで授業をしてきたのかということについても、共有化していきたい。

委員長・小中一貫教育として取組みたいことをテーマに討論をしていただいたが、夢のよ

うな話ではなく、地域の実情をふまえ、子どもの発達もふまえた上での実現可能な夢を話し合っていた。これらの取り組みは、是非、取り入れていただきたい。現場の教職員の皆さんもこうした夢を持っていると思うので、その夢をすくい上げる取り組みは必要である。しかし今後、難しい問題もあると考える。学校統合を進めていく上で、失われることもある。失ってしまうという考え方もあると思うが、それを取り戻すような、あるいはそれを凌駕^{りょうが}していくような、子どもたちへの教育環境の整備をつくりあげていくことが、大人の世代に課された課題であるとする。特色ある教育や小中一貫教育というかたちで、何が出来るのかを考え続けていくことが重要である。是非、教育委員会でも、今日の内容をすくい上げていただきたい。

条件整備の問題については、良いことばかりではなく負担も増えるのが現実である。実際にどのように解決していくのかを、同時に考えていかななくてはならない。人と予算を、いかに効率的に配備していくのかを考えていくことが、グループ討論で出された実現可能な夢を、本当に実現させることに繋がる。すぐに終わる夢にしないために、持続的、発展的に支えていくシステムをつくっていかなくてはならない。

日程第7 藤原地区小学校建設計画について

(藤原地区小学校建設計画のスケジュールについて、資料をもとに説明した。)

日程第8 閉会